研究テーマ
統合実習におけるリフレクション面接･三者面談が看護学生のメタ認知にもたらす効果の検証
－統合実習の最終成績での自己評価と他者評価の乖離の解消を目指して－

【目的】統合実習の最終評価において、学生自身の自己評価と指導者の他者評価との間に乖離が生じていることに問題意識を抱いた。先行研究ではメタ認知は学習に欠かせない能力とされているが、看護学実習において看護学生のリフレクション能力やメタ認知能力の向上につながることを実証した研究は少なく、また、実習の到達度を高めることを実証した研究は見られない。そのため、本研究の目的を、統合実習中間のリフレクション面接･三者面談により、看護学生のリフレクション能力、メタ認知能力が向上し、実習最終評価の自己評価と他者評価の乖離が減少、且つ、統合実習の到達度が向上するかを検証することとした。

【方法】研究デザインは、プレテストーポストテストデザインによる仮説検証型介入評価研究と質的研究を組み合わせた混合研究法とした。調査期間は 2021 年 9 月～12 月、対象は A 看護専門学校の 3 年生 42 名。教育的介入のプロトコルは、①基本的に 1 名の教員が中間カンファレンス前の学内日に Zoom でリフレクション面接(以下､面接)を個別に 30 分実施し、最終クールのみ 3 人の教員で行った。②中間カンファレンス後に学生･実習指導者･教員による三者面談を対面で 10 分行った。データ収集方法は、面接前･後と統合実習終了後に「リフレクション尺度」(以下、R 尺度)「メタ認知尺度」(以下、M 尺度)を用いた調査を合計 3 回行った。分析方法は、反復測定の一元配置の分散分析と多重比較、Pearson 相関で分析を行った。リフレクション面接･三者面談に関しての自由記載を意味のまとまりごとにコード化し、質的記述的分析を行った。

【倫理的配慮】本研究は、自校（承認番号９）と研究対象者が実習する施設（承認番号 R3－26）の倫理審査委員会の承認を得ている。

【結果】回収率 52%。学習到達度 92%(前年度の 3 年生 86.4%)であった。R 尺度では、面接実施前･後と統合実習終了後の 3 回の比較いずれにおいても、有意差を認めた。M 尺度では、面接実施前と統合実習終了後の比較で有意差を認めた。また、毎回の R 尺度の得点と M 尺度の得点間に正の相関を認めたが、学習到達度との間には有意な相関はなかったが、統合実習の最終成績の自他評価の全体的な減少につながった。さらに、リフレクション面接･三者面談における学生･教員･指導者の反応は概ね肯定的であった。

【考察･結論】R･M 尺度毎の多重比較では有意差を認め、リフレクション面接と三者面談が学生のメタ認知に影響を及ぼし、結果、自己評価と他者評価の乖離の減少に寄与したと考える。自己評価が高い学生はリフレクション面接で成果を認めたが、自己評価の低い学生は、青年期の特性や日本の文化的背景による自己肯定感の低さが根底にあり、すぐに成果を出すことは困難であった。しかし、統合実習の最終成績は高得点であったため、自己評価と他者評価の乖離自体が問題ではなく、その理由を追求し支援することが大切だと考える。